

◆ 平成27年度 全国学力・学習状況調査結果 《小学校・国語科》 ◆

■調査結果の概要

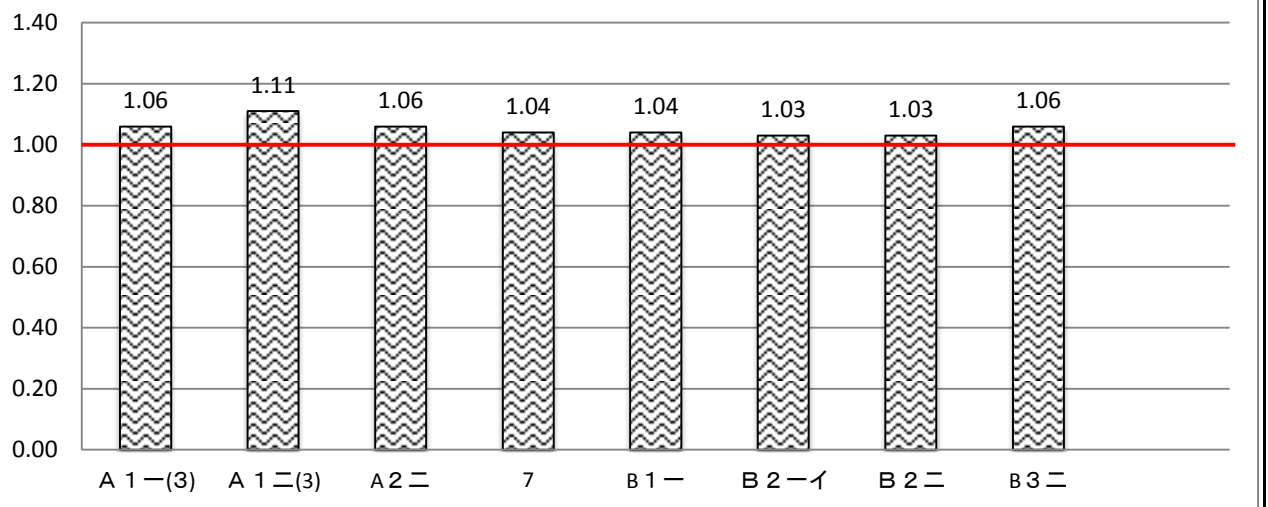
A問題(主として「知識」に関する問題)の結果																					
○全体	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.03で、全国平均正答率を上回っている。(佐賀市72.1)(全国70.0) 																				
○評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 「書く能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.01で、全国平均正答率を上回っている。(佐賀市86.8)(全国86.0) 「読む能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.00で、全国平均正答率と同等である。(佐賀市55.2)(全国55.2) 「言語についての知識・理解・技能」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.05で、全国平均正答率を上回っている。(佐賀市80.7)(全国77.2) 																				
○内容・領域	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.01で、全国平均正答率を上回っている。(佐賀市86.8)(全国86.0) 「読むこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.00で、全国平均正答率と同等である。(佐賀市55.2)(全国55.2) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.05で、全国平均正答率を上回っている。(佐賀市80.7)(全国77.2) 																				
○グラフ	<table border="1"> <caption>グラフのデータ</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語A</td> <td>1.03</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く(観点)</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>書く(観点)</td> <td>1.01</td> </tr> <tr> <td>読む(観点)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>言語(観点)</td> <td>1.05</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く(領域)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>書く(領域)</td> <td>1.01</td> </tr> <tr> <td>読む(領域)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>佐読(領域)</td> <td>1.05</td> </tr> </tbody> </table>	項目	割合	国語A	1.03	話す・聞く(観点)	1.00	書く(観点)	1.01	読む(観点)	1	言語(観点)	1.05	話す・聞く(領域)	1	書く(領域)	1.01	読む(領域)	1	佐読(領域)	1.05
項目	割合																				
国語A	1.03																				
話す・聞く(観点)	1.00																				
書く(観点)	1.01																				
読む(観点)	1																				
言語(観点)	1.05																				
話す・聞く(領域)	1																				
書く(領域)	1.01																				
読む(領域)	1																				
佐読(領域)	1.05																				

B問題(主として「活用」に関する問題)の結果																							
○全体	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.02で、全国平均正答率を上回っている。(佐賀市67.0)(全国65.4) 																						
○評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 「国語への関心・意欲・態度」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.03で、全国平均正答率より上回っている。(佐賀市57.0)(全国55.4) 「書く能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.03で、全国平均正答率より上回っている。(佐賀市62.9)(全国61.1) 「読む能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.02で、全国平均正答率より上回っている。(佐賀市69.8)(全国68.1) 																						
○内容・領域	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.03で、全国平均正答率より上回っている。(佐賀市62.9)(全国61.1) 「読むこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.02で、全国平均正答率より上回っている。(佐賀市69.8)(全国68.1) 																						
○グラフ	<table border="1"> <caption>グラフのデータ</caption> <thead> <tr> <th>観点/領域</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語B</td> <td>1.02</td> </tr> <tr> <td>関心(観点)</td> <td>1.03</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く(観点)</td> <td>1.03</td> </tr> <tr> <td>書く(観点)</td> <td>1.02</td> </tr> <tr> <td>読む(観点)</td> <td>1.02</td> </tr> <tr> <td>言語(観点)</td> <td>1.03</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く(領域)</td> <td>1.03</td> </tr> <tr> <td>書く(領域)</td> <td>1.03</td> </tr> <tr> <td>読む(領域)</td> <td>1.02</td> </tr> <tr> <td>伝承(領域)</td> <td>1.02</td> </tr> </tbody> </table>	観点/領域	割合	国語B	1.02	関心(観点)	1.03	話す・聞く(観点)	1.03	書く(観点)	1.02	読む(観点)	1.02	言語(観点)	1.03	話す・聞く(領域)	1.03	書く(領域)	1.03	読む(領域)	1.02	伝承(領域)	1.02
観点/領域	割合																						
国語B	1.02																						
関心(観点)	1.03																						
話す・聞く(観点)	1.03																						
書く(観点)	1.02																						
読む(観点)	1.02																						
言語(観点)	1.03																						
話す・聞く(領域)	1.03																						
書く(領域)	1.03																						
読む(領域)	1.02																						
伝承(領域)	1.02																						

■調査結果の分析【成果(強み)】

問題番号	領域	観点	出題のねらい	分 析
A 1ー(3)	伝統	言語	漢字を正しく読む	文の意味を理解した上で、児童の日常生活に基づいた漢字を正しく読むことができている。
A 1二(3)	伝統	言語	漢字を正しく書く	文の意味を理解した上で、児童の日常生活に基づいた漢字を正しく書くことができている。
A 2二	伝統	言語	主語と述語との照応関係を捉える	文がどのように組み立てられているかを理解し、文の構成として、適切なものを選ぶことができている。
A 7	読む	読む	資料の中から必要な情報を読み取る	書かれている情報を的確に捉え、資料の中から条件に合うものを選んでている。
B 1ー	書く	書く	目的や意図に応じ、新聞の割り付けをする。	文章の種類や形態の違いを捉え、新聞の割り付けとして適切なものを選んでている。
B 2ーイ	読む	読む	目的に応じ、中心となる語や文を捉える	難しい言葉とその定義が書かれている文を捉え、適切な言葉を正確に書き抜いている。
B 2二	書く	書く	目的に応じ、文章の要旨を捉える	文章全体の内容を的確に押さえながら、要旨をまとめて書くことができている。
B 3二	読む	読む	登場人物の気持ちの変化を想像しながら読む	登場人物の気持ちを想像して、声に出して読むときの工夫を考えることができている。

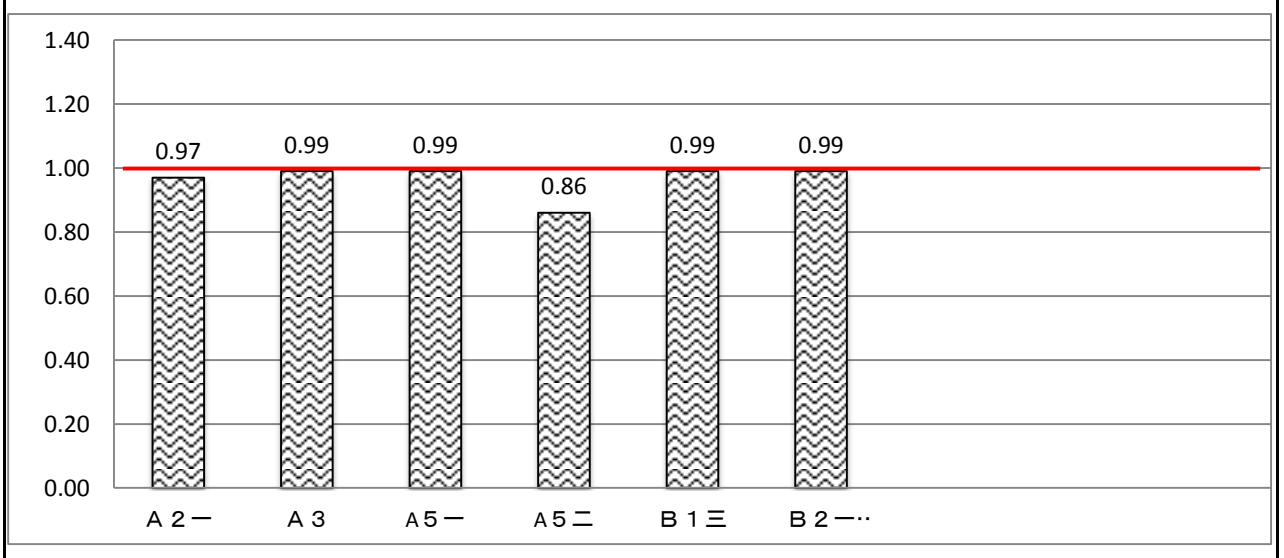
○グラフ



■調査結果の分析【課題(弱み)】

問題番号	領域	観点	出題のねらい	分 析
A 2ー	伝統	言語	文の中の主語を捉える	文の主語として適切なものを選ぶことに課題がある。例文中から主語と述語とを区別して取り出すなどの活動を通し、主述の照応関係をいつも意識できるようにする必要がある。
A 3	話す・聞く	話す・聞く	話の内容に対する聞き方を工夫する	聞き方の説明として適切なものを選択することに課題がある。国語科のみならず、各教科等の学習や日常生活において、普段から内容や文の長さに気を付けたメモをとることで、よりよい聞き方を学ぶ場を設ける。
A 5ー	読む	読む	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える	コラムの中で、筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択することに課題がある。実際のコラムを読み、話題や筆者の考えを比べ読みするような場を設ける。
A 5二	読む	読む	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える	コラムの中で、筆者が引用している言葉を書き抜くことに課題がある。書き出し、引用、事実、意見などの様々な表現の工夫に着目して読む場を設ける。
B 1三	書く	書く	目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く	インタビューの様子の内容をまとめて書くことに課題がある。伝えたいことを明確にするために、聞いた内容や分かったこと(事実)だけではなく、取材した相手の状況や自分が感じたことや考えたこと(感想や意見)などもメモに取り、必要な内容を取捨選択する場を設ける。
B 2ーア	読む	読む	目的に応じ中心となる語や文を捉える	空欄に入る言葉の意味として適切な内容を書き抜くことに課題がある。筆者の意図や目的にふさわしいキーワードを見つけ出す経験を積む必要がある。

○グラフ



■調査結果の分析【指導改善について】

○ 体験したことと表現方法を結びつける学習活動の充実

条件に合わせて、インタビューの内容をまとめたり、筆者が大事にしている言葉を取り出したりする力が大切である。また、表現するための技法や学習用語を学ぶことも必要である。そのためには、目的を明確にした切実な場作りをし、体験したことを表現する機会を数多く設けることで、想像力・表現力・批判的思考力が高まると考える。筆者の考えと表現、自分の体験と表現、考えと言葉などを常に結びつける活動を仕組むことで目的をふまえて文章を読み表現する意識を持たせ、成就感を味わわせたいと考える。

○ 生活時間の使い方と内容の改善

テレビやゲームのしすぎは、学力に影響している。例えばテレビ視聴が1時間より少ない児童や全くゲームをしない児童の平均正答率が高い。また、携帯電話やスマートフォンをもっていない児童の正答率が高い。テレビや新聞から情報を得ることや、読書量が多い児童は、平均正答率が高い。適切な情報は児童の語彙力や情報収集力・判断力に大きく影響すると考える。低学年からの読書習慣や規律正しい生活習慣を身に付けさせることが必要と考える。

○ 目的を持って周囲と関わろうとする姿勢の育成

「家の人と学校での出来事について話をする」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」児童は、学力が高い傾向にある。常に目的を持って周囲と関わろうとすると、分かりやすく伝えるために中心を明確にする、相手の気持ちを考えて読むなど相乗的な効果が生じる。また、相手に伝わる言葉や表現方法の工夫をする姿勢の育成のために、友達と協力して活動する場や地域の方と接する場での表現機会を頻繁に経験させる必要があると考える。

■評価の観点については、以下のように表記しています。 ■内容・領域については、以下のように表記しています。

評価の観点	表記
国語への関心・意欲・態度	関心
話す・聞く能力	話す・聞く
書く能力	書く
読む能力	読む
言語についての知識・理解・技能	言語

内容・領域	表記
話すこと・聞くこと	話す・聞く
書くこと	書く
読むこと	読む
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	伝統